

芸術

この分類には、美術、芸術、運動競技に関する資料が含まれます。

ここでは、栃木県の美術館、文化財、音楽、スポーツに関する資料を紹介します。

40 県内美術館などのコレクションが一堂に会した企画展の図録



『とちぎ美術探訪
県内ミュージアムが誇る日本絵画の名品たち』
栃木県立美術館
2006(平成 18 年)
111p 23cm

2006 年(平成 18 年)10 月から 12 月に開催された「とちぎ美術探訪」展の図録である。県内 19 の美術館が所蔵する本県ゆかりの画家の日本画を中心に紹介する内容となっている。

栃木県立美術館学芸員による、原始時代から江戸時代、そして明治時代以降の本県の絵画に関する概説の後、所蔵館ごとに出品作品を紹介している。

巻末には、展示の協力館マップや美術館紹介、栃木関連の画家の系譜、出品された作家の解説・出品リストが収録されている。

栃木県の日本画の歴史や作品について、コンパクトにまとめられた読みやすい資料である。

貸 出

【請求記号 : T706/1/006. 10】

39 美しいモノクロ写真が際立つ 日光の自然と文化の解説書



『日光
その美術と歴史』

岡田謙／〔ほか〕著

淡交新社

1961(昭和 36 年)

256p 21cm

※絶版もしくは重版未定

日光の二社一寺(日光東照宮・日光二荒山神社・日光山輪王寺)を中心とした歴史と美術の融合書である。

執筆者は岡田謙氏(東京国立博物館文部技官)、喜田川清香氏(二荒神社宮司)、福井康順氏(早稲田大学教授文学博士)、額賀大興氏(東照宮権宮司)の 4 名であり、それぞれの専門的な立場・視点から日光を捉え、解説している。

文章のみでは伝わりにくい、日光の豊かな自然や神秘的な美術については、カメラマン葛西宗誠氏による美しい写真ページで補っている。

日光を深く知るためにも、モノクロ写真を楽しむためにも活用できる資料である。

レファレンス

【請求記号 : T702/11】

41 川上澄生と民藝運動作家たちの企画展の図録



『川上澄生と民藝
濱田庄司、芹沢銈介、塚田泰三郎、棟方志功と共に』
鹿沼市立川上澄生美術館
2009(平成 21 年)
79p 29cm

栃木県で開催された日本民藝協会の全国大会にあわせた特別展(2009 年 5 月 5 日~8 月 30 日)の図録である。

川上澄生の作品に民藝の視点からスポットをあてた。同時に民藝運動に加わり、年齢が近く、交流の深かった益子焼の濱田庄司、染色の芹沢銈介、和時計研究の塚田泰三郎、版画の棟方志功の作品もあわせて展示された。本書には代表作品が人物像とともに掲載されている。

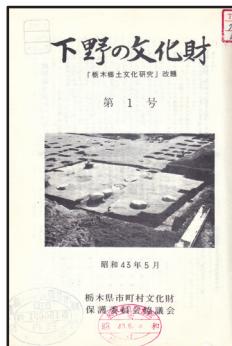
鹿沼市立川上澄生美術館長執筆の「栃木県の民藝運動 黎明期について」では、栃木県の民藝運動の始まりに関わった人物とともに栃木県民藝協会設立について知ることができる。

川上澄生の民藝関係資料として、雑誌「民藝」の掲載文の抜粋がある。巻末には、それぞれの作家を一覧にした年譜・出品リストを収録している。

レファレンス

【請求記号 : T706/59/009. 6】

42 文化財を中心とした郷土史研究の専門誌



『下野の文化財』
(第1~10号)
栃木県市町村文化財保護委員会
協議会
1968~74(昭和43年~49年)
22cm

栃木県市町村文化財保護委員会協議会の機関誌。当館では、1968年(昭和43年)刊行の第1号から1974年(昭和49年)刊行の第10号までを所蔵している。

第1号の巻頭言によると、休刊していた「栃木郷土文化研究」(当館未所蔵)の改題とのことである。

内容は会員の寄稿が中心で、各自の研究成果を誌面で発表しており、有形、無形の文化財について、幅広く論考を読むことができる。尾島利雄/著「文化財実技講座 民俗資料調査のポイント」(第3号、第5号)といった会員向けの連載や、阿久津正二/著「黒羽と文化財保護事業」(第2号)、大田貞祐/著「足尾の文化財展のあゆみ」(第10号)といった各地域の報告などが掲載されており、当時の在野の研究者の動向や文化財保護行政の動向を知ることができる。

レファレンス

【請求記号 : T709/21】

44 栃木県が誇る名作曲家の自叙伝



『歌は心でうたうもの
私の履歴書』
船村徹/著
日本経済新聞社
2002(平成14年)
284, 55p 20cm

日本経済新聞文化面で連載されている履歴書風に半生を綴る自伝作品「私の履歴書」のひとつである。新聞連載に加筆したものが出版されることが一般的であるが、本書は単行本用に原稿を執筆し、その要約版が新聞に連載された。そのため、本書は他作品よりも比較的ページ数が多い。巻末には55ページもの著者の主要作品リストが作詞家、歌手、発売年月日とともに掲載されている。

著者と長年に渡ってコンビを組み、「別れの一本杉」などのヒット曲を世に送り出した、作詞家高野公男氏との別れはクローズアップされており、2人の関係の深さが色濃く映し出されている。

著者は、長年の卓越した功績などにより、2014年(平成26年)に栃木県の名誉県民に、2016年(平成28年)には、文化勲章を受賞した。

貸 出

【請求記号 : T760/43】

43 人物から見る栃木県の伝統工芸



『下野の手仕事』
柏村祐司/著、下野手仕事会/編
随想舎
2005(平成17年)
103p 22cm

栃木県内の伝統的手仕事の保存・伝承を目的に設立された「下野手仕事会」の創立30周年記念誌である。

竹や木材を使った細工や彫刻、線香、和紙、織物、絵、人形、陶芸など45の伝統的な手仕事を、従事する職人とともに見開き2ページで紹介している。

見開きの右ページに解説文、左ページに写真を配置し、各工芸の歴史や概要だけでなく、職人の略歴や作風も紹介している。

取り上げた手仕事の中には、栃木県選定保存技術の「武者絵」(大畠耕雲氏)をはじめ、県の伝統工芸品に指定される作品が数多く含まれている。

なお、結城紬、益子焼といった個別の工芸のほか、職人の信仰についての解説も付されており、興味深い。

貸 出

【請求記号 : T750/8】

45 校歌を通して栃木県の自然や風土を みつめなおす一冊



『風土の中の栃木県校歌集』
(上巻・下巻)
吉村光右/編著
栃木県連合教育会
1987~1988(昭和62年~63年)
18cm

高校教諭であり、『宇都宮市史』、『真岡市史』の執筆にも携わった郷土史家でもある吉村光右氏が、栃木県内の小学校、中学校、高校、大学の校歌を収集し、編集した校歌集である。上巻の小学校編、下巻の中・高・大編の2冊となっている。

上巻では、校歌の意義や、校歌の中に謳われている、主に山・川・動植物等の自然景を取り上げている。

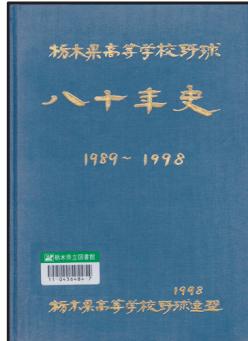
下巻では、風土の面から校歌を分析し、歌の中に詠まれる自然景を集約するとともに、校歌の中の花鳥風月、校歌の精神についてまとめられている。

上下巻とも、「各学校の校歌」の章では、1校1ページごとに、校歌の歌詞・楽譜、学校番号、所在地、電話番号、校章、校旗、校訓、学校沿革概要などが掲載されており、各学校の伝統や特色を知ることができる。

貸 出

【請求記号 : T767/1】

46 栃木県高校野球の歴史と伝統をたどる記念誌



『栃木県高等学校野球八十年史』

栃木県高等学校野球連盟
1999(平成 11年)
510p 27cm

栃木県高等学校野球連盟による『栃木県高校野球史』は、「六十年史」(昭和 55 年)に始まり、「七十年史」「八十年史」「九十年史」と 4 冊が刊行されている。

全国中等学校野球大会(大正 4 年～昭和 22 年)、全国高等学校野球選手権大会(昭和 23 年～)の記録(出場校、試合結果など)を中心とし、写真や年譜、関係者の寄稿なども収録している。六十年史には「草創期(明治 20 年～昭和 6 年)」として大会前史の掲載が、八十年史には「栃木県高校(中等)野球の歩み 栃木県高校野球小史」の掲載があり、各巻で編集に工夫がされている。

なお、六十年史の同連盟理事長の巻頭言によると、刊行にあたり、当館が所蔵する新聞のマイクロフィルムなどによって、戦後散逸した記録の収集整理を進めたとのことである。

貸 出

【請求記号 : T783/2】

言語

この分類には、言語学、郷土方言などが含まれます。

ここでは、栃木県の方言について総合的に書かれた資料や方言の実践をまとめた資料をご紹介します。

47 伝説の初代横綱をはじめ、栃木県出身の力士がわかる栃木県初の郷土力士伝



『探訪栃木の名力士』

板橋雄三郎、青柳文男／共著
下野新聞社
1994(平成 6 年)
368, 74 p 22cm

※絶版もしくは重版未定

江戸から昭和の栃木県出身力士約 40 名を解説した初めての資料である。

江戸期、徳川家光が将軍の頃に存在したとされる、伝説の初代横綱・明石志賀之助や、明石よりはやや史実性がある第 2 代横綱・綾川五郎次、大正期に活躍した強豪横綱・栃木山守也の 3 横綱に加え、県内各地に顕彰碑や墓、伝承が伝わる力士たちについて、著者自身が聞き取りや実地調査を行い、読み物風にまとめた。

卷末の「下野力士一覧」では、42 力士と 2 行司の本名や出身地などの情報を一覧できる。また「下野幕内力士星取表」は、確認できた星取表(取組相手と勝敗を示した表)を全て収録。「都道府県別幕内力士一覧」では、江戸期以降の 47 都道府県別幕内力士の情報を総覧できる。

レファレンス

【請求記号 : 788/4】

48 栃木県内の方言を総覧できる資料



『栃木県方言辞典 改訂増補』
森下喜一／著
随想舎
2010(平成 22 年)
455p 21cm

1983 年(昭和 58 年)初版の増補改訂版である。初版出版後の方言語彙調査などにより、語彙数が増加され約 8300 語を収録している。方言の用例文を短くわかりやすく、そして多數掲載し、新しくわかった民衆語源も付け加えるとともに、新市町名の書き換えなど内容も見直した。

巻頭には「栃木県の方言の歴史」、県内の方言使用状況を分布図とともに整理した「栃木県の方言区画」、「栃木県の方言の特徴」、「調査方法」が掲載されている。

巻末に標準語索引があり、標準語から方言語彙を検索することもできる。なお、標準語には漢字の記載があり、その意味を理解しやすくなっている。

著者は『日本の言葉シリーズ 9 栃木県のことば』(明治書院 2004 年)、『栃木県方言語源辞典』(落合書店 2005 年)なども執筆している。

レファレンス

【請求記号 : T810/37】

49

心温まる栃木弁での会話が詰まった物語集



『だいすきなおづる婆っば
心に響く愛とユーモア』

嶋均三／著

下野新聞社

2007(平成 19 年)

205p 19cm

※絶版もしくは重版未定

表紙に「方言で綴る 600 字の物語」とあるとおり、栃木の方言を多用した短編集である。2005 年(平成 17 年)から 2007 年(平成 19 年)に著者が出演していた、ラジオ番組のコーナー「愛しのおづる婆っば」で朗読した話をまとめたものである。

物語に登場する方言(昭和 30 年代に、主に栃木県北部那須地方で使われていた方言)の一部には、著者による語句解説がある。物語は季節別に収録されており、生き生きとした会話文から当時の生活の様子に思いを馳せることができる。

2010 年(平成 22 年)に「方言で綴る 600 字の物語」として、『おづる婆っば もんぺと地下たび』を出版している。こちらは県内のタウン誌に連載した短編を加筆・修正・増補したものである。

貸 出

【請求記号 : T810/57】

文学

この分類は、文学に関する資料です。

ここでは、栃木県の文学史、ゆかりの著者や人物の小説をご紹介します。

50

イラストとともに栃木弁を気軽に楽しく学べる資料



『ごじやっぺこくでね～

栃木弁大全集』

まいぶれ那須／編

随想舎

2006(平成 18 年)

255 p 19cm

※絶版もしくは重版未定

インターネットサイト「まいぶれ那須」に掲載された「栃木のおもしろ会話集」を書籍化したものである。2009 年(平成 21 年)に、バージョンアップ版として『ごじやっぺこくでね～2 栃木弁大全集』が出版された。

編集者が見聞きした会話を 1~2 ページにまとめ、「会社の巻」「ご近所の巻」など、状況別に章を立てて紹介しており、各会話には、内容に対する解説、使用されている栃木弁の意味が掲載されている。

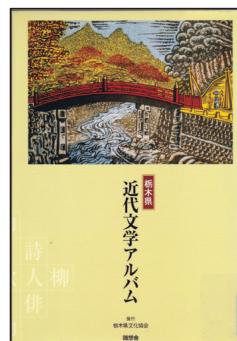
巻末には、本書で取り上げた栃木弁の意味をまとめた「ごじやっぺこくでね～辞典」が収録されている。

文章とともに、独特的挿絵が笑いを誘い、楽しく栃木弁を知ることができる資料である。

貸 出

【請求記号 : T810/66】

51 貴重な写真で振り返る栃木県の文学史



『栃木県近代文学アルバム』

落合雄三／〔ほか〕 編著

栃木県文化協会 (随想舎)

2000(平成 12 年)

159p 20cm

栃木県芸術祭 50 周年の記念事業として出版された近代文学の写真集。栃木県ゆかりの文学者たちの肖像や日常を捉えたスナップ、自筆原稿や色紙、作品を彩る風景写真など、各人の生きざまを捉えた 900 枚を見ることができる貴重な資料集である。

「栃木県ゆかりの作家の肖像」、「栃木県文学紀行」、「栃木県の短詩型文学をリードした人たち」の 3 部構成となっている。栃木県出身の文学者だけでなく、人生の一時期を栃木県で過ごした人、旅で訪れ作品を残した人などを、広く取り上げている。『栃木の文学史』(栃木県文化協会 1986)など、他の基礎資料と併用することで、真価を發揮する資料である。

レファレンス

【請求記号 : T900/6】

52 古代から現代までの栃木県の文学の歴史をまとめた労作

栃木の文学史

栃木県文化協会

『栃木の文学史』

栃木の文学史編集委員会／編
栃木県文化協会
1986(昭和 61 年)
629p 図版 8p 22cm

県内の研究者、作家、文化関係者の執筆により、手づくりの文学史とすることを目指し編まれた資料である。栃木県の文学の歴史として初めて本格的にまとめられたもので、この後の調査研究や創作活動の参考となった。

萬葉集の東歌・防人の歌や中世における宇都宮氏を中心とした歌壇の業績から始まり、古代から現代の栃木県における文学界の流れや主要な作家の伝記的な記述を中心にまとめられている。また、戦後の文芸同人雑誌や各時代における、栃木県出身の人物や名所・旧蹟について取り上げた作品についてもページが割かれている。

巻末には 30 ページもの栃木の文学史年表が収められており、文学作品と作家、歴史上の出来事を合わせて知ることができる。

レファレンス

【請求記号 : T902/11】

54 栃木県ゆかりの著者による自伝的小説の続編

『少年記 オサム 14 歳』

森詠／著
集英社
2005(平成 17 年)
345p 20cm

※絶版もしくは重版未定

時は昭和 30 年代初頭。那須湯本中に転校して半年。母からまた引っ越しをすると告げられ、黒磯中に転校したオサム。那須を思い出しながら、新たな地で新たな人々に出会う。

本書は『オサムの朝(あした)』(第 10 回坪田譲治文学賞受賞作)の続編である。著者は、栃木県那須地方で幼少時代を過ごしており、物語中にもその経験を生かした表現が見受けられる。(那珂川での魚獲り、那須山八幡高原での林間学校、冬の日にできた天然のスケートリンクなど)

著者が発表した栃木県内が舞台の小説として『那珂川青春記』『日に新たなり 続・那珂川青春記』も挙げられる。また、現在も『怒濤の世紀』シリーズ、『剣客相談人』シリーズなど多数の小説を手がけている。

なお、本書は文庫化(新潮文庫 2013 年)された。

貸出

【請求記号 : T936/16】

53 著者のライフワーク・足尾銅山鉱毒事件を扱う代表作



『毒 風聞・田中正造』

立松和平／著
東京書籍
1997(平成 9 年)
313p 20cm

※絶版もしくは重版未定

日本初の公害事件と言われる「足尾銅山鉱毒事件」を扱った、著者の代表作の一つ。初出は日本農業新聞での連載小説で、本作により第 51 回毎日出版文化賞(1997 年)を受賞した。

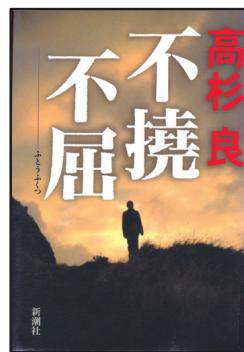
渡良瀬川に棲むナマズや人間に付くノミなど、ユニークな語り手が章ごとに交代し、鉱毒事件と谷中村の顛末を語る。

著者の曾祖父はこの時期、足尾銅山で坑夫として働いており、宇都宮で生まれ育った著者にとって足尾は馴染み深い土地であったという。その後、足尾や田中正造は著者のライフワークとなり、鉱毒事件を扱った作品や足尾を舞台にした小説を数多く執筆した。また、「NPO 法人足尾に緑を育てる会」の顧問として、毎年足尾で植樹を行うなど、2010 年(平成 22 年)に亡くなるまで足尾の未来を拓く活動を行った。

貸出

【請求記号 : T930/67】

55 栃木県ゆかりの人物をモデルにした小説



『不撓不屈』

高杉良／著
新潮社
2002(平成 14 年)
390p 20cm

※絶版もしくは重版未定

鹿沼市の一税理士飯塚毅氏と国税庁との税務理論闘争「飯塚事件」の実話を基にした小説である。主人公は中小企業の経営と従業員の利益を守るために、「別段賞与制度」という節税方法を奨励するが、国税庁はこれを認めようとしないため、訴訟へと踏み切った。たったひとりで長期間に渡る訴訟を「不撓不屈」の精神で戦い続けた姿をビジネスマン小説の第一人者が実名で描いている。

初出は、雑誌『プレジデント』(2001 年 1 月 29 日号～2002 年 4 月 15 号)に連載された。また、文庫化(新潮文庫 2006 年、角川文庫 2013 年)、映画化(2006 年)もされた。

なお、当館では飯塚毅氏著作の『正規の簿記の諸原則』(森山書店 1988)、『職業会計人の使命と責任』(TKC 出版 2006)などを所蔵している。

貸出

【請求記号 : T936/37】